



## 第 20 回

奈良県医師会透析部会 PD 分科会が、  
8 月 27 日（土）に奈良県医師会館にて  
開催されます。当院からは、プラザ透析  
センター 渡邊美智子 師長が『固定期  
を設ける当院の CAPD 導入法で 2 回  
カテーテル留置を行った 1 例』の学術発  
表をされますのでご紹介いたします。





固定期を設ける当院の CAPD 導入法で 2 回カテーテル留置を行った 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院

○渡邊美智子 安井暁子 高藤節子（プラザ透析センター）

武井 誠 吉岡伸夫 高比康臣（内科）

### 【はじめに】

出口部作製時、取り出したカテーテルに接続チューブをつけないで皮膚に固定する当院の CAPD3 段階導入は物理的負荷を軽減し、出口部感染の予防に有用であると報告した。その 3 段階で導入したが、一旦離脱後、今度はカテーテルを埋没させずに固定期を温存する方法で CAPD 導入を同一症例に行ったので報告する。

### 【対象と方法】

症例は 60 歳男性。CAPD カテーテルを段階的導入法（SMAP）に準じて、皮下に埋没させる（埋没期）。カテーテルを皮下より取り出し、シリコン栓で閉鎖したままフィルムで皮膚面に固定し、創傷治癒を促進させる（固定期）。出口部安定後、接続チューブをつけて CAPD を開始する（導入期）という 3 段階で CAPD に導入した。出口部ケアは、消毒をしないシャワー洗浄と固定用スポンジ枕を使用した。導入 12 ヶ月にバッグ交換時の操作ミスによる経カテーテル感染で腹膜炎を発症し、カテーテルを抜去したが、9 ヶ月間の HD 期間を経て、再度 PD を希望した。そこで、すみやかに移行するため、今度はカテーテルを埋没させない従来法に準じて、カテーテルの挿入と同時に出口部を作製し、その後の固定期と導入期は 3 段階導入と同じ方法で行った。同一症例に固定期を設ける方法で 2 回導入したので、それぞれの PD 期間中の出口部感染の有無を観察した。

### 【結果】

3 段階導入の埋没期は 193 日、固定期 20 日、導入後 12 ヶ月に出口部感染はなかった。2 回目の導入では固定期 26 日、導入後 7 ヶ月に出口部感染はなかった。

### 【結語】

2 回目の導入も 3 段階導入と変わらない出口部感染の予防効果があった。従来法であれ、SMAP 法であれ固定期を設けることは、出口部感染の予防には有用であると思われる。

